

ト	ア	る	%	を	の	の	な	「	収		の	三		あ	か	思	の	よ			現
二	メ	状	で	対	最	国	い	等	入		ひ	位		る	し	い	国	う			代
位	リ	態	、	象	新	民	人	価	な		と	の		の	、	浮	々	な			日
な	カ	で	七	と	値	生	の	可	ど		つ	経		す	か	か	や	イ			本
の	の	す	人	し	は	活	割	処	だ		と	済		。	、	べ	ア	メ			と
で	一	。	に	「	一	基	合	分	ら		し	大			今	る	フリ	ー			貧
す	六	国	一	子	五	礎	の	所	税		て	国			や	方	カ	ジ			困
。	、	際	人	ど	、	調	こ	得	金		い	で			も	の	を	を			
な	八	的	の	も	六	査	と	」	や		ま				い	紛	お				
ぜ	%	に	子	の	%	に	を	の	社		。				ら	争	持				
経	に	み	ど	も	、	よ	言	中	会						っ	地	ち				
済	次	と	が	貧	一	る	い	央	保						し	域	で				
大	い	、	貧	困	七	、	ま	値	障						や	の	す				
国	で	こ	困	率	歳	日	す	の	費						る	子	か				
で	G	の	に	」	以	本	。	半	な						で	ど					
あ	7	貧	陥	は	下	の	厚	分	ど						し	も					
る	中	困	っ	一	の	子	生	未	を						よ	た					
日	ワ	率	て	三	ど	ど	労	満	引						う	ち					
本	ー	は	い	、	も	も	働	し	いた						。	を					
に	ス	は		九			省	か							し						

このような貧困が現れるのでし
ょうか。私自身も今まで「貧困」
というワードを耳にしたとき、
真つ先に思い浮かぶのは「遠い
海外での話」というイメージで
した。その考えは、日本の社会
問題について調べることでも大
きく変わりました。それは「日
本は技術の進んだ経済的に豊か
な国」という印象が強かった私
にとって、「貧困」という事実は
とても衝撃的でしたが、「知る」
ことによつて新たに発見したこ
とも、考えさせられたこともた
くさんありました。例えば、も
ともとは子どもの孤食を減らす
ために作られた『子ども食堂』
ですが、今や子どもの貧困を救
うという一面もあるそうです。
それまで『子ども食堂』という
名称を耳にしたことはあつても
、それもまた自分とは遠い存在
なのだろうと思つていました。
しかし今回調べてみて、私たち
が住む城陽市にも『子ども食堂』
があることを知りました。また、
セーブ・ザ・チルドレン・ジャ
パン

が二〇一〇年に実施した「日本の子どもの貧困」についてのアンケート調査では、一〇代から六〇代までの計一九〇名のうち、「日本の子どもは貧困問題について、その内容まで知っている」という人は二三%にとどまっております、情報提供が十分に行われていないことが分かります。そして、日本の子どもは貧困を聞いても自分にはピンとこないと考えている人は過半数を超えているというのが、今の日本の現状です。

確かに、貧困は自己責任である、と考える方もいらっしやるでしょう。しかし、貧困は本当に自己責任なのでしょうか。人は皆、さまざまな事情を抱えて生きています。子どもの場合には、親の経済状態も周りの環境も選ぶことはできません。また、生活が苦しくても公的な保護が追いついていないということも考えられます。

私自身「受験生」という立場になってみて、改めて感じて、「学歴社会」も、同じよう

な側面があります。いい大学を出た人はいいい企業に就職でき、多くのものを手に入れて満足ち足りた人生を送ることができ、それは決して楽をして手に入れたものでないことは分かります。しかし、貧困が原因で満足に学習に打ち込める環境すら手に入れない子どもたちもいます。その格差を具体的に埋めていく手段もないままに「貧困は自己責任だから」と切り捨ててしまうのは、あまりにも酷だと思ふのです。

現代日本が置かれている「貧困」という現状を抜け出すためには、まず、「知る」ということが大切だと考えます。先に取り上げたアンケート調査では、「子どもの貧困問題に関わっていきたい」と回答した人は八七%に上っています。現状を知らなければ何も始まらないし、一人の力ではどうにもならないこともあります。私たちの住む国、日本が、本当の意味で豊かな国になるように、子どもたちが貧困のために学ぶ機会を失うことのない

よ
う
に
、
私
た
ち
ひ
と
り
ひ
と
り
が
日
本
の
貧
困
問
題
を
「
知
る
」
こ
と
が
必
要
だ
と
思
う
の
で
す
。